

対談

# 人間として豊かさを 実感できる国をめぐらせ。

「貨幣の資本主義」から「人間の資本主義」へ。  
世界経済の秩序が崩れつつあるいま、日本の進むべき道とは。



水野和夫

三浦の、かすお  
三浦の、かすお  
三浦の、かすお  
一九五三年愛知県生まれ。八〇年早稲田  
大学大学院経済学研究所修士課程修了。  
同年、八千代証券(現ニッセイFII証券)  
入社。九九年よりチーフエコノミスト。  
著書に「人々はなぜグローバル経済の本  
質を見誤るのか」(日本経済新聞出版社)  
「金融大崩壊」(NHK出版)など。



藤沢久美

ふじさわ、くみ  
シンクタンク・ソフィアバンク副代表  
一九八九年大阪市立大学卒業後、国内外  
の投資運用会社に勤務。九六年に日本初  
の投資信託評価会社を起業。二〇〇〇年  
にシンクタンク・ソフィアバンクの設立  
に参画。現在、副代表。社会起業家フオ  
ーラム副代表、法政大学有教員も兼任。  
著書に「なぜ、御用聞きビジネスが伸び  
ているのか」(ダイヤモンド社)など。

## 資源が国力に つながる時代

藤沢 水野さんが著書『金融大崩壊  
「アメリカ金融帝国」の終焉』(NH  
K出版)などでおっしゃられている  
とおり、たしかに現在、世界の秩序  
が崩れつつあるように思えます。私  
は去年の「COP15」(第一五回気  
候変動枠組条約締約国会議)に参加  
しましたが、皆で物事を決めるとい  
うことができなくなっている。なぜ  
かというと、小さな国も発言力を持

す。その典型がセブン・メジャーズ  
(エクソン、モービル、ガルフ、テキ  
サコ、シエプロン、BP、ロイヤル・  
ダッチ・シェル)で、いままではこ  
の七社が好きだけ原油を採掘し、  
タダ同然で仕入れてきたけれども、  
世界の全員が石油を安く手に入れる  
ことは不可能です。

藤沢 おっしゃるように、いまは資  
源が国力につながる時代になってい  
て、佐伯啓思氏(京都大学大学院教  
授)も「これからは資源、人口、資  
本という生産要素を持っている国が  
強くなる」といわれています。そう  
すると、世界の構図はガラリと変わ  
る。

水野 そうなんです。

藤沢 水野さんも「現在はサブブラ  
イムローン問題をクルルダウンする  
ための一時の休戦にすぎない。世界  
経済はこれから激変する」とおっし  
やっています。では新しい秩序がで

つてきているし、中国が戦略的に途  
上国を巻き込んだりしていままとま  
らない。

水野 いまはイギリス、アメリカが  
つくった近代社会の枠組みが大きく  
変わってきているのだらうと思いま  
す。新興国の発言力が強くなってい  
るといっても、先進国ではいままで  
の豊かな生活を享受する基盤が崩れ  
てきていて、一方、新興国ではこれ  
から近代化が始まるわけです。

十七世紀初頭にイギリスが東イン

ド会社をつくって近代が始まったと  
きは、中国やインドは搾取される側  
でした。それらの国々が豊かになら  
ないような仕組みをつくっておい  
て、イギリス、アメリカが豊かにな  
っていく。近代というのはそういう  
四〇〇年間でした。それがいまは六  
七億人全員が近代化し、豊かになろ  
うとしているわけです。けれどもイ  
ギリス、アメリカがつくった近代資  
本主義というのともと全員が豊  
かになれる仕組みではないわけで

きるのに何十年ぐらいかかるのか。

その辺はどうお考えですか。

**水野** まず、さつき申し上げたのは、一言でいえば、イギリス、アメリカが主導した「海の時代」が終わって再び「陸の時代」が来るということ。かつての陸の時代から海の時代への転換は、十五世紀半ばあるいは十五世紀末から一六〇年ないし二〇〇年かかっています。では今回の陸の時代の始まりはいつかというところ、私は一九七三年のオイルショックではないかと思っています。

オイルショックというのは、セブン・メジャーズが投資さえすれば原油を安く仕入れることができる時代が終わったということ、それから三〇年余。その間、「9・11」があり、サブプライムローン問題があり、リーマン・ショックがあつて世界の金融がおかしくなつた。私はいまが激変の中間点ではないかと思

います。

**藤沢** なるほど。ではあと三〇年ぐらひは混沌とした時代が続くと。

**水野** そう思います。

**藤沢** そうすると、さつきの三つの生産要素のうちのどれを、どの国がいちばん多く持っているかと考えると、その後の世界経済をコントロールするのは……。

**水野** いまは資源と人口は陸の国が、資本は海の国のウォール街が持っています。資源を持っている国とお金を持っている国が分かれているわけです。ですから、ひよっとすると資本と資源が同盟を結ぶのではないかと。中国の後ろにウォール街がいる、というようなことになるかもしれない。そうするといちばん困るのは資本がなくなつて抜け殻のようになった先進国の中間層です。

**藤沢** そういうストーリーをお聞きすると、日本がいちばんひどい目に

日本の大企業製造業は表裏一体で、だからアメリカがこければ日本が最も大きな影響を受けるわけです。

ということ、いま三五兆円の需給ギャップがあるといわれますが、それはアメリカで三五兆円の需要が消えたからで、それを公共投資や景気対策で埋めるといふのは、アメリカの需要はもととITバブルや住宅バブルによるもので、それがバブルの崩壊とともに消えたわけですから、需給ギャップを埋めよう、埋めようとしていっていると毎年三五兆円の政府支出が必要になつて財政がもたない。

**藤沢** おっしゃるとおりで、日本はアメリカの金融資本主義に消費の面でも金融の面でも乗っていて、ダブルパンチを食らつたわけです。でも、これはチャンスでもあると思うんです。本来であれば、日本はバブル崩壊後、新しい経済モデルをつ

遭いそうですね。

**水野** そういうことになりますね。

私は「日本は近代化レースで金メダルを取つた」と思っています。理由は、近代化レースというのは自動車と半導体です。日本は資源がないのに自動車と半導体の生産量で世界一になり、国民一人当たり年間所得も一ドル九〇円で計算すると四万ドルを超えてアメリカと肩を並べるようになった。だからいちばん風当たりを強く受けるのは日本だと思

## 所得で価値を測らない社会を

**藤沢** 現に、サブプライムローン問題のときは日本は不良債権問題をクリアしているからそれほど大きな影響を受けないといわれていたのが、リーマン・ショック後の半年間は二ケタのマイナス成長になりました。

るべきだった。ところが相変わらずアメリカの後ばかり追いかけてきたために、アメリカがこけるとどうしているかわからない。だからとくにサブプライムローン問題以降、外国人投資家は、世界で最もリスクが高いのは日本だ、外需型でいくのか内需型でいくのか、それが見えないからリスクヘッジができないと言っている。投資が来ないということ、企業も活動できないし、GDPも伸びない。これはある意味、政治の問題でもあると思います。

**水野** いま日本経済は去年の四月から上向いています。ただ、それはその前が大不況のようなペースで大きく落ち込んだからで、たとえばポールを落とせば三分の一か三分の二ぐらひの高さには跳ね上がるけれど、落とした地点より上には上がらない。それと同じで、大きく落ち込んだ反動によって上がってくる分はこ



これからは資源が国力となる時代に。写真はロシア極東で原油を積み出すタンカー ©共同

の一―三月期、四―六月期ぐらいで終わるだろうと思います。

藤沢 ですから「日本はこういう国になるべきだ」という、経済的に豊かになった後の新しい国家像をつくらなければいけないと思うんです。水野 私は近代の仕組みに依存してさらに成長しようというのはもう無理だと思います。一人当たり年間所得六万ドルというのは近代社会の仕組みのなかではほとんど維持不可能で、仮に六万ドルになったとしても、豊かさという点で四万ドルとどれほどの違いがあるのか。だからいまの四万ドルを維持できるようにする。それには、こういうふうにするれば雇用もあって、毎年新しいものを買い替えなくても皆が十分豊かに暮らしているという仕組みを早くつくることだと思います。言い換えれば、近代というのは所得が価値そのものになっているけれども、所得で価値を測

らない。そういう社会をつくるべきだと思います。

## 日本の中小企業がこれからのお手本

藤沢 私も豊かさというものを経済的な数字で測る時代を終えるべきだと思います。そのお手本は中小企業で、日本には一〇〇年や二〇〇年以上の歴史を持ち、四〇年も五〇年も黒字を続けている中小企業がたくさんあるわけです。そういう会社は売上や利益よりも従業員にいかに安心して働いてもらえるかということに大事にしていて、だから働いている人たちは働くことに喜びを感じ、給料もそう多くはないけれども少しづつ増えている。

たとえば、マニーという会社はラオスに工場を造っていますが、技術革新は日本で行っています。ですから社員たちは甘やかされているわけ

い。そして社会保障を皆が安心して暮らせる仕組みにすれば所得の全額が消費に回るわけです。

藤沢 それから、これからの企業にとって大切なことは、いかに社会に貢献するかだと思います。私はここ二年、ダボス会議に行っています。二〇〇八年、ビル・ゲイツがスピーチしてからダボス会議の空気もずいぶん変わりました。彼は「これから尊敬される企業は利益を上げる企業ではない。世界の課題を、本業を通して解決していく企業だ」と言うのです。そして「たとえば」と言っていて住友化学の例を挙げたわけですね。住友化学はアフリカで蚊を寄せつけない薬を塗り込んだ蚊帳を作り、マラリアを抑え、現地で雇用を生んでいる。ああいう企業がこれから尊敬されるべき企業だと。自分ほ儲けるだけ儲けて辞めてから言うからずるいんですけれど(笑)。住友

化学だけでなく、私は社会貢献という点でも、そのモデルは技術力を持つ日本の中小企業だと確信しています。

水野 政策面で言うと、大きな方向を五つぐらい示すことだと思います。まず、さきほど申し上げた社会保障と雇用で、社会保障は税と一体化して財源を確保する。雇用の鍵はやはりワークシェアリング(勤労者同士で雇用を分け合うこと)だと思います。そして財政健全化の道筋を明示する。それから、これからは陸の時代になるわけですから、アジア共同体のような枠組みの構築です。それも日本の経済成長のためではなく、アジアの人たちが豊かになるために貢献する。あとは「ジャパングール」と呼ばれるトレンドを生かした観光です。

「成長戦略が必要だ」と言う人もいますが、私はゼロ成長でいいと思

## マイティ・ハート

新聞記者のエル・パールの妻である水野

テロリストに惨殺された夫の正義と勇気を証明するため奮闘する妻の感動の手記(映画化) 高濱貴訳

マリアンヌパール ●定価 680円(税別) 潮社出版

ではなく、常にイノベーション(技術革新)を求められていて厳しいわけですね。だが、そこにまた働く喜びがある。私が取材しただけでも、伊那食品、六花亭、今治造船、池内タオル、など皆そうでした。そういう中小企業の姿がこれからの企業のあり方だと思うのです。あとは個人が蓄積してきた金融資産をどう活用するかだと思います。

水野 いま個人金融資産一四〇〇兆―一五〇〇兆円のなかで国債発行額は約六〇〇兆円。そのほとんどがコンクリートに使われているわけです。そういう行き方を変えなくてはいけません。まず、ダムと高速道路の建設をぜんぶ凍結する。減価償却の範囲内でしかコンクリートは造らな

ます。ゼロ成長をめざせば、アジアの人たちを応援した結果、ブラスアルファとしての成長もあるし、製造業は海外へ出ていかなければ生き残れないでしょうが、配当が戻ってくるから成長につながる。成長戦略を持たないことが実はいいことで、価値観を変えればいいんです。

藤沢 私の言葉で言うと「貨幣の資本主義から人間の資本主義へ」で、お金の豊かさではなく人間としての豊かさを実感できる国づくりをめざすことだと思います。「経済成長しなくていいんだ」と言う日本が衰退するように思われるかもしれないけれど、売上や利益を追い求めないほうが、結果、緩やかだけれど成長する。いままでもまったく違う考え方が、国民がまだ豊かな金融資産を持っている今こそそういう国づくりにチャレンジすべきだと思います。■